

うれしくて泣けた話

先週、**5年生の高原学習**がありました。1日目の朝、見送りをしていると「**校長先生は来ないの？校長先生も行こうよ**」と言ってバスに乗り込む子がいました。私は今回の宿泊地で高原学習をしたことがないので、今夜のキャンプファイヤーだけでも見に行こうかと思っていましたので、「**来ないはずの校長が闇夜に登場したらサプライズになるかな**」と考え、放課後が来るのを楽しみにしていました。

早めに校舎の施錠確認をし、教務主任に後をお任せして山へ向かいました。現地につくと既に辺りは闇の中。ホテル以外に人工的な明かりがないので、**とても神秘的なロケーション**です。子どもたちの元気な声を頼りにキャンプファイヤー会場にたどり着くと、みんなフォークダンスに熱中していました。曲の合間にレク担当の先生が私を紹介してくださり、子どもたちは「なんでここにいるの？」と言いながら集まってきました。朝、バスに乗る前に声をかけてくれた子も「**本当に来たの？**」と驚いています。**サプライズ成功**です。

整備されたファイヤーサークルの外周にあるベンチに教頭先生とAさん、Bさんが踊りつかれて休むために座っていました。Aさんに「お兄ちゃんがないから、(1年生の)Cさんは今夜寝られないんじゃないかな」と言うと、「**まくらに自分の写真を貼ってきた**」とのこと。素敵なお兄さんです。(翌日、弟のCさんに聞くと、写真があったから、安心して寝られたようです)

Bさんとは、しばらく前に学校で「僕、102号室なんだ」「じゃあ、おれ(校長)も102号室に泊ろうかな」などと会話をしていたことから、「さあて、今夜は102号室かな」と声をかけました。すると、「どこで寝るの?」「Bさんの布団かな」「え～、いやだよ。それに、同じ部屋の〇〇くんと〇〇くんにも言わなくちゃ」と話してその場の会話は終わりました。そして、大盛り上がりでキャンプファイヤーは終了し、「**一緒に温泉に入ろうよ**」という魅力的なお誘いに後ろ髪をひかれつつ、帰路につきました。

翌日、帰校された先生方から、「**102号室には3人しかいないのに、なぜか布団が4組敷いてあった**」と聞きました。私を迎え入れるために準備してくれたようです。**こんな優しい子どもたちがいて、私は幸せ者だなあ**と思いました。

今日は七夕、「**川西小の子どもたちにたくさんの幸せがありますように**」とお祈りしようと思います。

